

## 板橋一步の年譜と作品目録

長谷川 総一郎

(1994年4月20日受理)

### Ippo ITABASHI 1911-1993: Biographical Notes and List of Sculptures

Soichiro HASEGAWA

#### はじめに

板橋一步が死去してから既に1年が過ぎた。板橋は美術教育と彫刻制作においてともにユニークな業績を残した。その生涯は大変ドラマティックでもある。板橋の仕事としての教師と作家、価値観としての世界と地域の問題などから生涯を丹念に辿り、これに考察を加えることは地域や美術教育の研究にとって大きな意義がある。

板橋は、鹿児島県に生まれ、東京の学校を卒業した後は、全く見知らぬ北陸の小さな井波の地に落ち着いた。新しい構想の中等学校創立の教官として呼ばれた。しかし、着任するや、創立構想は中止となる。そして、「とりあえず」(板橋)尋常小学校の代用教員としての職を与えられる。招聘した町長の本音は定かではない。しかし、板橋の招聘は、戦時体制と長い将来に向けての井波町の木彫刻を含んだ商工業のさらなる発展と産業教育振興のための遠大な計画の一つであったことは事実のようだ。今様にいえば、町おこし政策の一環であったのである。

小学校代用教員への不服、そして板橋という「旅の人」と濃厚な地域性との齟齬は、上級学校教員の資格獲得という自己研鑽に駆り立てていく。そのベクトルは、敗戦の虚脱を契機に一気に噴出する。終戦の南礪地方の疎開作家や井波の木彫刻家とのふれあいはその爆発の決定的な触媒となる。その後は、井波の人間集団を絡めた文化のコンサーヴァティズムと疎開作家にふれたロマンティズムとの相克のなかを揺れながら人生を歩んでいくのである。

遠心的に美術のロマンを追っていた少壮年の頃は、学校の青少年に文化とヒューマンイズムでのインパクトを与え、一方、求心的に東洋の再発見にリターンした高年の頃は、地元井波と国許鹿児島の地域貢献に意を注ぎ、晩年には最大級の感謝の念を造形に表わしながら生涯を閉じていった。

「まれびと」を招聘した当時の町長のアイデアは、結果的には実を結んだといってもよい。

ここでは板橋の生涯の考察の前に、先ず年譜と作品目録の作成を目的とする。他日に作品写真、続いて板橋一步論をまとめたい。(平成6年4月)

#### 1. 年 譜

明治44年 (1911)

3月12日、鹿児島県始良郡蒲生町に、父小山田莊太郎、母ヨシのあいだの5男として生まれる。名は政義。父は、陸軍歩兵少尉であった。4人の男兄弟は皆軍人になった。小山田家は武士の家系にあり、近親には海軍少将、2人の町長らがいた。

大正10年 (1921) 10歳	この頃、蒲生町の鎮守の森八幡神社にある日本一の大楠（特別天然記念物、樹齢1500年）のもとで、日本一になりたいと願う。
昭和2年 (1927) 16歳	4月、鹿児島県立薩南工業学校建築科に入学する。 この頃、武者絵を得意とし頼まれて描くこともあった。教師の似顔絵を黒板によく描き、油絵の具をかついで写生に度々でかけた。 在学中、県会議員であった父は財産をつぶし、64歳で死去する。
昭和6年 (1931) 20歳	3月、同校を卒業する。 4月、官立東京高等工芸学校（現在千葉大学）図案選科に入学し、室内設計を専攻する。 8月、太平洋美術学校夏期講習生として油絵を学ぶ。夜間も受講していたようである。
昭和8年 (1933) 22歳	3月、同校を修了する。卒業製作に喫茶店の建築と店舗設計をてがける。卒業後、百貨店宣伝部に就職する。
昭和9年 (1934) 23歳	6月、井波町長綿貫栄による町立商工学校設立構想により工業（工芸図案）担当教官として未知の井波町に着任する。町長から井波町在住の数多くの木彫刻家の工房への案内をうける。 とりあえず井波町井波尋常高等小学校に図画手工代用教員となる。商工学校構想は地域の反対によりまもなく中止となる。当時の井波高等小学校は3年制と長く、進学指導にも定評があり、近郷町村の学校から優秀な子供が集まっていた。教師にも旧制中学校の指導資格者がいた。
昭和12年 (1937) 26歳	7月、板橋ゆきと結婚、婿養子となる。照圓寺住職竹部教乗が親代わりをつとめ、生涯にわたって親のように慕っていくことになる。
昭和13年 (1938) 27歳	7月、長男寛が生まれる。
昭和14年 (1939) 28歳	12月、富山県小学校図画専科正教員免許状を受領し、訓導となる。
昭和15年 (1940) 29歳	12月、文部省実業学校教員試験検定に合格し、図案科免許状を受領する。
昭和16年 (1941) 30歳	3月、富山県公立青年学校教諭の兼任となる。 7月、小学校教員を一身上の都合により退職する。 8月、富山県立高岡工芸学校に転任し、改組新設の木工科嘱託教授となる。
昭和17年 (1942) 31歳	12月、富山県立高岡商業学校教諭として転任し、商業美術を担当する（昭和22年3月まで）。 この頃、高瀬神社初詣や瑞泉寺太子伝のポスターの制作を依頼され図案家として知られる。
昭和19年 (1944) 33歳	3月、商業学校は富山県立高岡第二工業学校と改称される。
昭和20年 (1945) 34歳	終戦を契機に新生第一歩を決意して号を一步と名のる。
昭和21年 (1946) 35歳	7月、洋画家川辺外治と疎開中の彫刻家永原廣に出会う。永原からはその後の彫刻芸術への決定的な啓示を受け、塑像技術も学ぶ。 同月、富山県立砺波高等女学校で全県的な美術講習会がもたれ、図案の講師をつとめる。仕掛け人は川辺外治、絵画講師は日本画家小坂勝人、石版画家織田一磨、洋画家伊藤四郎、彫刻講師は永原廣であった。講師は板橋を除いて全て疎開中の作家であった。 11月、長女庸子が生まれる（現在、書家の松本庸子）。

- 昭和22年（1947）36歳  
4月、学制改革による新設の井波町外5カ村中学校組合立井波中学校に創設スタッフとして招請され、職業科と図画工作科の工作領域を担当する。図画領域は洋画家藤井宏教諭がもち、2人で美術部の絵画の指導にあたる。  
同月、川辺外治のアトリエで、清原啓一、藤井宏とともに、日曜デッサン会を始める（昭和33年まで続く）。  
秋、日本画家広橋環が中心となって出町中学校で砺波美術教育研究会をつくり、この会が行ったデッサン会や生徒のための連合中学美術展に積極的に参加していく。
- 昭和23年（1948）37歳  
この頃、新聞記者牧野尚が主宰する井波文化クラブの会員となり、広く芸術文化にふれ、地域の知己を得ていく（死去まで会員）。
- 昭和24年（1949）38歳  
この頃、木彫刻家西田秀と宮崎民二の3人で井波デッサン会をつくる。ここに、疎開中の版画家棟方志功、彫刻家の村井辰夫、日本画家の小坂勝人らが指導に来て、彼らより芸術の神髄について強烈な触発をうける。また、川辺のアトリエでのデッサン会は、砺波ヒューザン会と名づけられ、続いて熱心に通いデッサンの研鑽に励む。
- 昭和25年（1950）39歳  
富山県彫刻家連盟の庶務をつとめる（24年入会と推定される）。
- 昭和26年（1951）40歳  
この頃、井波町の石匠常川勇吉より石彫刻の技術にふれる。  
9月、第15回新制作展に「北国の子供」が入選する。  
10月、第7回日展に「靴磨きの少年」が入選する。
- 昭和27年（1952）41歳  
10月、第6回自由美術展に「終戦の思い出」が入選する。  
同月、第8回日展に「釣りの少年」が入選する。
- 昭和28年（1953）41歳  
10月、第9回日展に「ともだち」が入選する。  
42歳  
11月、ICAロンドン国際彫刻コンクールに「無名政治犯の像」が入賞する。
- 昭和29年（1954）42歳  
1月、富山県彫刻家連盟委員となる。
- 昭和30年（1955）43歳  
1月、井波美術協会委員となる。  
10月、第11回日展に「陣立」が入選する。
- 昭和31年（1956）44歳  
1月より、井波町報表紙に俳画と俳句をのせる。書は書家常川汀華が担当する（昭和34年12月まで連載）。  
45歳  
10月、第12回日展に「なかよし」が入選する。
- 昭和32年（1957）46歳  
4月より、井波美術協会主催のモデル（裸体）デッサン会を、アマチュアをも対象に月2回井波中学校の図書室や図画室で始める。
- 昭和33年（1958）47歳  
10月、第13回国体スポーツ芸術展で「柔道衣の少年」が第3位を受賞する（富山国体の時）。
- 昭和34年（1959）48歳  
6月、第14回富山県展審査委員をつとめる（昭和35年、36年、40年、43年、46年、51年、54年、58年、62年もつとめる）。  
同月、彩彫会結成に参加し、第1回展を富山市清明堂画廊で開く。  
10月、第2回日展に「がわまわしの少年」が入選する（日展は社団法人として民営化され、昭和33年が第1回展となる）。  
同月、井波町工芸史編纂委員となる。
- 昭和35年（1960）49歳  
10月、第3回日展で「たあた」が入選する。

同月、井波中学校工作クラブなどが第5回富山県少年美術展で中学部門第1位学校特別賞を受賞する(副賞はテレビ)。

昭和36年(1961) 50歳 3月、学校や地域の美術指導が顕著であるとして第6回富山新聞文化賞(教育賞)を受賞する。

同月、井波町立井波中学校を離任する。

4月、富山県立高岡工芸高等学校に転勤し、改組新設のデザイン科教諭となる。

10月、第4回日展で「へぐら」が入選する。

昭和37年(1962) 51歳 10月、第5回日展で「へぐら島」が入選する。

昭和38年(1963) 52歳 4月、高岡工芸高等学校でデザイン科長となる。

10月、第6回日展で「日本海」が入選する。

昭和39年(1964) 53歳 10月、第7回日展で「村長」が入選する。

昭和40年(1965) 53歳 1月、彩彰会の事務局となる(昭和44年まで)。

54歳 4月、高岡工芸高等学校で生徒指導部長となる。

10月、二紀会創立会員の松村外次郎の勧めもあって、公募展出品を日展から二紀会に転じ、第19回二紀展に「あゆむ」が入選する。

昭和41年(1966) 55歳 10月、第20回二紀展に「日本海」が入選する。

同月、二紀会同人となる。

昭和42年(1967) 56歳 10月、第21回二紀展に「日本海」を同人出品する。

昭和43年(1968) 57歳 6月、彩彰会10周年記念展で板橋の特陳コーナーが設けられる。

10月、第22回二紀展で「ベトナム母子像」が同人優賞を受賞する。

昭和44年(1969) 58歳 4月、富山県立保育専門学院非常勤講師となる(昭和48年3月まで)。

富山県立砺波工業高等学校非常勤講師となる(昭和49年3月まで)。

9月と11月、「ベトナム母子像」建立のため、サイゴン市に渡る。

10月、第23回二紀展に「戦争中の子供」を同人出品する。

昭和45年(1970) 59歳 3月、富山県立高岡工芸高等学校を定年退職する。

4月、同校の非常勤講師となる(昭和47年3月まで)。

10月、第24回二紀展に「海浜」を同人出品する。

同月、二紀会会員となる。

昭和46年(1971) 60歳 10月、25回二紀展に「托鉢」を会員出品する。

昭和47年(1972) 61歳 10月、第26回二紀展に「はねる」を会員出品する。

昭和48年(1973) 61歳 1月、井波美術協会評議員となる。富山県彫刻家連盟委員長となる(1期2年)。

62歳 3月、富山県美術連合会常任理事となる。

4月、第28回富山県展運営委員をつとめる(昭和49年、50年、53年、56年にもつとめる)。富山県芸術文化協会理事となる(昭和50年まで)。

10月、第27回二紀展に「折り」を会員出品する。

昭和49年(1974) 63歳 10月、第28回二紀展に「勲章と子供」を会員出品する。

同月、富山県功労(芸術文化)表彰を授かる。

昭和50年(1975) 63歳 1月、富山県彫刻家連盟顧問となる(死去まで)。

64歳 6月、回顧展が開催され、作品集が刊行される。横山善一、野村玉枝、高瀬由雄、野村金二、長谷川総一郎らの企画による。

- 昭和51年（1976）64歳  
65歳
- 10月、第29回二紀展に「太陽に祈る」を会員出品する。  
2月、1カ月間、欧州4カ国のスケッチ旅行（団体）にでかける。  
5月、富山県芸術文化協会参議となる（死去まで）。  
10月、第30回二紀展に「行者」を会員出品する。  
11月、ヨーロッパスケッチ展を開く。
- 昭和52年（1977）66歳  
昭和53年（1978）67歳
- 10月、第31回二紀展に「囚人ヴォルガ河の舟曳」を会員出品する。  
同月、二紀会委員となる（死去まで）。  
4月、井波木彫刻工芸高等職業訓練校非常勤講師としてデッサンや写生を教える。  
10月、第32回二紀展に「走る」を委員出品する。
- 昭和54年（1979）67歳  
68歳
- 1月、井波美術協会顧問となる（死去まで）。  
5月、井波彫刻伝統産業会館の初代館長となる。  
7月、北陸二紀会の運営委員となる。  
10月、第33回二紀展に「さつま太鼓踊」を委員出品する。
- 昭和55年（1980）69歳  
昭和56年（1981）70歳
- 10月、第34回二紀展で「難民キャンプの子供」が文部大臣賞を受賞する。  
3月、初めての大病、顔面神経痛にかかり、長期間入院する。  
7月、富山近美友の会（県立近代美術館）の参与となる。  
11月、生存者叙勲で勲五等瑞宝賞を授かる。
- 昭和57年（1982）70歳  
71歳
- 1月、文化庁主催の第15回現代美術選抜展に「難民キャンプの子供」が選ばれ、富山展も開かれる。  
10月、第36回二紀展に「嵐・わが闘病記」を委員出品し、悪夢のような大病の経験を彫刻に造形化する。  
11月、富山市松川べり彫刻公園に「めぐみ」を依頼制作する。
- 昭和58年（1983）72歳
- 6月、初めて二紀会富山展（第36回巡回展）が二紀会主催のもとに富山大和で開かれる。  
10月、第37回二紀展に「闘病の画家（中村彝）」を委員出品する。  
12月、富山二紀グループを結成し、代表となる。
- 昭和59年（1984）73歳
- 7月、二紀会富山展（第37回巡回展）が二紀会と富山県民会館主催で開かれる。  
10月、第38回二紀展に「マッキンリーを想う」（昭和27年作）と「炎の人（ゴッホ）」を委員出品する。
- 昭和60年（1985）74歳  
昭和61年（1986）74歳  
75歳
- 10月、第39回二紀展に「寒い朝」を委員出品する。  
2月、彩彫会の会員とともにインド旅行にでかける。  
4月、富山県美術品専門委員となる（死去まで）。  
10月、第40回二紀展に「春風にのってサイクリング」を委員出品する。
- 昭和62年（1987）76歳
- 3月、鹿児島市「緑と彫刻の道づくり」事業からの依頼により、環境彫刻的な群像「陽光を浴びて」を制作する。依頼された彫刻家には佐藤忠良や山本正道らがいた。  
同月、故郷の蒲生町で帰郷講演を行う。  
6月、井波町向川砂防ダム堰堤の壁画「七福神」の原画を描く。  
8月、健康診断で腹部大道脈瘤が発覚し、直ぐ大手術をうける。  
10月、第41回二紀展に「チビッコ頑張れ」（「陽光を浴びて」の一部の

- 原型)を委員出品する。
- 11月、生涯の代表作9点を鑄造して、井波町に寄贈する。
- 昭和63年(1988) 76歳  
1月、胃潰瘍の手術をうける。翌年に白内障の手術をうけるが、3年間続いた手術入院の連続で、体力と気力が衰えてくる。
- 77歳  
5月、二紀会評議員となる(死去まで)。
- 10月、第42回二紀展に「愛妃を偲ぶタージ・マハルの恋慕情」を委員出品する。
- 平成元年(1989) 78歳  
3月、富山県美術連合会顧問となる(死去まで)。
- 7月、井波木彫刻開祖・前川三四郎の像を制作し、これが井波彫刻協同組合創立70周年記念として井波彫刻伝統産業会館前庭に建つ。
- 10月、第43回二紀展に「前川三四郎像(試作)」を委員出品する。
- 平成2年(1990) 79歳  
5月、井波彫刻伝統産業会館館長を退任する。
- 同月、62年のブロンズ像9点の寄贈に対して紺綬褒章を授かる。
- 10月、第44回二紀展に「町おこし井波町開町600年の象徴綽如上人像(試作)」を委員出品する。
- 11月、瑞泉寺開祖・綽如上人の像が井波町六角堂交差点に建つ。
- 平成3年(1991) 80歳  
5月、第10回となみ野美術展に出品した「難民キャンプの子供」が買い上げ最高賞となる。
- 10月、第45回二紀展に「ジョギングの朝」を委員出品する(62年作「陽光を浴びて」の原型の一部)。
- 11月、長年の彫刻や教育を讃えられ北日本新聞文化賞を受賞する。
- 平成4年(1992) 81歳  
8月、生涯親代わりであった井波町照圓寺に綽如上人のブロンズ像を寄贈、建立する。
- 10月、第46回二紀展で「朝のジョギング(ゆっくり走る)」が田村賞を受賞する(62年作「陽光を浴びて」の原型の一部)。
- 平成5年(1993) 81歳  
82歳  
前年より徐々に体力の衰えが目立ち、2月入院する。
- 4月5日、肺癌のため公立井波総合病院で死去する。
- 4月8日、板橋の自宅で葬儀がとりおこなわれる。弔いに400人余りが集まる。
- 6月、井波町坪野の墓地にある板橋家代々の墓に葬られる。
- 平成6年(1994)  
1月、富山二紀グループ10周年記念展で「板橋一步石膏直付けエスキス展」が特別展示される。
- 平成6年(1994)  
7月、井波美術館で「板橋一步・森田清一・堀友二3人遺作展」が開かれる。

2. 作品目録

制作年	作品名	種類等	材質	高さcm	出品先と所蔵先
昭和24年(1949)	* 「若き日の自刻像」	青年胸像	石膏型抜き	34	第4回富山県展に入選。
	* 「水あそび」	幼女等身像	石膏型抜き	52	北陸展出品, 第13回富山県展に入選(昭和33年, 「庸子の像」と同一作品と推定)。
	* 同上	幼女等身像	ブロンズ	52	井波町3点所蔵(総合文化センター噴水), 個人(G.S. A.M., S.T.) 蔵。
昭和25年(1950)	「街で拾った子供」	男性1/2身立像	石膏型抜き	90	第5回富山県展で第2賞受賞。
昭和26年(1951)	「立山を想ふ」	男性1/2身立像	石膏型抜き		富山県観光美術展で受賞, 個人(Y.Y.) 蔵。
	「北国の子供」	男児胸像	岩		第6回富山県展で第3賞受賞。
	* 「北国の子供」	男児胸像	石膏型抜き	43	第15回新制作展に入選, 元個人(Y.I.) 蔵。
	* 「靴磨きの少年」	エスキ	石膏型抜き	68	
	* 「靴磨きの少年」	男児等身立像	セメソ	140	第7回日展に入選。
	同上	男児等身立像	ブロンズ	140	井波町所蔵(昭和62年保健センター), 個人蔵。
	「楽園」	レリーフ	セメソ	50	井波町立高瀬保育所所蔵。
昭和27年(1952)	* 「終戦の想い出」	前屈1/2身立像	石膏型抜き	25	第6回自由美術展に入選。
	* 「釣りの少年」	男児等身立像	セメソ	141	第8回日展に入選。
	* 「釣りの少年」	エスキ	石膏直付け	49	
	* 「少女胸像」	少女胸像	セメソ	43	第7回富山県展に入選。
	同上	少女胸像	ブロンズ	43	富山県立近代美術館所蔵。
	* 「登頂」	男性1/2身立像	石膏型抜き	52	
	同上	男性1/2身立像	ブロンズ	52	個人(S.K.) 蔵。
	* 「登頂(覇者) アルピニスト」(後年, 「マッキンリーに想う」で出品)	男性等身立像	石膏型抜き	156	富山県芸術祭に出品, 第38回二紀展に委員出品(昭和59年)。
昭和28年(1953)	* 「無限大」	2少女七分身倚像	セメソ	116	第8回富山県展に無鑑査出品。
	* 「ともだち」				第9回日展に入選。

制作年	作品名	種類等	材質	高さcm	出品先と所蔵先
22	同上	2少女七分身倚像	ブロンズ	116	富山市五番町小学校所蔵(昭和43年), 井波町所蔵(昭和62年井波中学校), 個人蔵。
23	* 「無名政治犯の像」	像	セメソ	50	ICA ロンドン国際彫刻展に入賞。
24	* 同上	2人群像	ブロンズ	50	富山県立高岡工芸高等学校所蔵(昭和45年青井記念美術館), 個人(N.T.)蔵。
25	* 「無名政治犯の像」	エスキス	石膏型抜き	59	
26	* 「子守」	母子像	御影石	43	'68二紀100人選抜展に出品(昭和43年), 個人(T.H.)所蔵。
27	昭和29年(1954)	破損	セメソ	85	元個人(M.H.)蔵。
28	* 「浴女」	女性裸身立像	セメソ	178	
29	* 「無名政治犯の像」	男性等身立像	セメソ	185	井波町立井波中学校所蔵(国旗掲揚塔)。
30	* 「青年の像」	青年等身立像	セメソ	45	
31	* 「青年の像」	エスキス	石膏型抜き	45	井波町立井波中学校所蔵(校長室)。
32	* 同上	エスキス	ブロンズ	185	
33	* 「倒立」(または「夏の日のよろこび」, 「海浜の像」)	少年2人等身立像	石膏型抜き	185	
34	昭和30年(1955)	所在不明	ブロンズ	185	井波町所蔵(昭和62年八日町通り)。
35	* 「陣立」	少女等身立像	セメソ	165	第10回富山県展で佳作受賞。
36	同上	少女等身立像	ブロンズ	165	第11回日展に入選。
37	* 「母子像」	母子仰向け像	石膏型抜き	32	熊谷市立市民体育館所蔵(昭和42年), 井波町所蔵(昭和62年井波小学校), 個人蔵。
38	同上	母子仰向け像	ブロンズ	32	'67二紀選抜100人展に出品(昭和42年)。
39	昭和31年(1956)	所在不明	セメソ	115	富山県立保育専門学院所蔵, 個人(O.G.)蔵。
40	* 「慈母」	母子等身群像	セメソ	200	第12回日展に入選, 井波町所蔵(昭和62年井波中学校, 玄關)。
41	* 「中学生」	台付き男性頭像	石	50	井波町立第1保育所所蔵。
42	* 「男の首」	鉄・石膏直付け	石	50	第12回富山県展で金賞受賞。

制作年	作品名	種類等	材質	高さcm	出品先と所蔵先
43 昭和33年(1958)	「柔道衣の少年」	少年1/2身立像	石膏型抜き	82	井口村立井口中学校所蔵(校長蔵)。
44	「柔道衣の少年」	少年等身立像	セメソント	161	第13回国体スポーツ芸術展で第3位入賞, 県営 富山武道館所蔵(昭和34年)。
45	同上	少年等身立像	ブロンズ	161	井波町所蔵(昭和62年役場), 富山県立小杉高 等学校所蔵(平成元年), 鹿兒島県立薩南工業 高等学校所蔵(平成元年「薩南健児の像」), 個人蔵。
46	「少女と鳩」	女兒1/2身座像	セメソント	74	井波町立井波小学校所蔵(玄関)。
47 昭和34年(1959)	* 「がわまわしの少年」	エスキース	石膏直付け	64	
48	* 「がわまわしの少年」	少年等身立像	セメソント	163	第2回日展に入選(日展は社団法人となり, 昭和 33年が第1回展となる)。
49 昭和35年(1960)	* 「たあた」(または, 「清純」)	少女等身立像	セメソント	166	第3回日展に入選。
50	同上	少女等身立像	ブロンズ	166	富山県立井波高等学校所蔵(前庭)。
51	* 「少女(首)」	像	石材	28	
52	* 「少女(首)」	像	セメソント	28	
53	* 「少女(首)」	像	F R P	28	個人(K.B)蔵。
54	「子供の国」	レリ	石膏型抜き	60	第6回北陸日彫展に会員出品。
55 昭和36年(1961)	* 「母子像」	エスキース	セメソント	20	第4回日展に入選。
56	* 「へぐら」(または「海の女」)	女性等身立像	セメソント	168	第5回日展に入選, 富山県立近代美術館所蔵 (平成3年)。
57 昭和37年(1962)	「へぐら島」	女性等身立像	セメソント	162	
58	* 「トルソー」	半具象形態	石膏直付け	61	
59	* 「トルソー」	半具象形態	セメソント	118	福野町立福野中学校所蔵(平成2年プロンズ鑄 造, 前庭)。
60	「希望」	少年少女等身群像	セメソント	173	第4回北陸日彫展に会員出品。
61 昭和38年(1963)	* 「日本海」(または, 「海浜」)	エスキース	石膏直付け	73	第6回日展に入選。
62	* 「日本海」	母子等身立像	セメソント	177	

制 作 年	作 品 名	種 類 等	材 質	高 さ cm	出 品 先 と 所 蔵 先
63	昭和39年(1964)	エ ス キ	石 膏 直 付 け	47	第19回富山県展に招待出品。
64	* 「村長」	男性等身立像	セ メ ン ト	186	第7回日展に入選。
65	* 「同上」	男性等身立像	ブ ロ ン ス	186	富山県立富山高等学校所蔵(昭和63年)、井波町所蔵(昭和62年社会体育館)、個人蔵。
66	「親和の像」	女性等身立像	ブ ロ ン ス	185	鹿兒島県蒲生町体育館所蔵(昭和41年という資料もあり)。
67	* 「現場監督」	エ ス キ	石 膏 直 付 け	53	第24回富山県展に招待出品(昭和44年)。
68	* 「あゆむ」	エ ス キ	石 膏 直 付 け	54	第20回富山県展に招待出品。
69	「あるけあるけ」	半具象女性倚像	石 膏 直 付 け	160	第19回二紀展に入選。
70	「自主自律」	少年等身立像	セ メ ン ト	108	利賀村立利賀中学校所蔵(後、ブロンズ鑄造)。
71	* 「日本海」	半具象女性倚像	セ メ ン ト	90	第20回二紀展に入選。
72	「どんとこい」	エ ス キ	石 膏	213	第22回富山県展に招待出品。
73	「日本海」	半具象女性倚像	セ メ ン ト 直 付 け	184	第21回二紀展に入選。
74	「魂」	青年等身立像	セ メ ン ト	184	砺波市立庄西中学校所蔵(平成3年養護老人ホームやなせ苑に移管)。
75	「少年バレーボール」(または「熱戦」)	男女等身2人像	ブ ロ ン ス	184	岐阜県上石津町役場所蔵、井波町所蔵(昭和62年役場)、井波町山野中央会館所蔵(昭和55年)、個人蔵。
76	* 「同上」	男女等身2人像	石 膏 型 抜 き	184	'70二紀選抜展と第12回彩影展に出品(昭和45年)。
77	昭和43年(1968)	エ ス キ	石 膏 直 付 け	51	第23回富山県展に招待出品。
78	* 「母子像」(または「ベトナム母子像」)	エ ス キ	ブ ロ ン ス	51	富山県立井波高等学校所蔵、富山県立山博物館所蔵。
79	* 「母子像」(または「ベトナム母子像」)	エ ス キ	石 膏 直 付 け	31	個人(M.H, S.K, O.K.)蔵。
80	同上	エ ス キ	ブ ロ ン ス	31	第22回二紀展で同人優勝受賞、第15回彩影展に
81	「ベトナム母子像」	母子等身立像	セ メ ン ト	188	出品(昭和48年)、富山県立近代美術館所蔵。

制作年	作品名	種類等	材質	高さcm	出品先と所蔵先
82	同上	母子等身立像	ブロンズ	188	個人蔵。
83	「工具殉職の碑」	抽象形態	ブロンズ	123	井波町所蔵（昭和62年総合文化センター）。
84	* 同上	抽象形態	石膏直付け	123	高岡市日本ゼオン所蔵。 69二紀選抜100人展と第11回彩彫展に出品（昭和44年）。
85	「師弟愛『和』」（または「母と子の像」）	母子等身立像	セメント	182	富山大学教育学部附属小学校所蔵（前庭）。
86	「師弟愛」	母子等身立像	セメント	180	砺波市立砺波東部小学校所蔵（中庭）。
87	* 「ベトナム母子像」	母子等身立像	F R P	243	
88	同上。	母子等身立像	ブロンズ	243	サイゴン市（現、ホー・チミン市）チョウウライ病院所蔵。
89	* 「戦争中の子供」	男性等身立像	石膏直付け	84	第23回二紀展に同人出品。
90	* 「海浜」	少女等身立像	セメント	169	第24回二紀展に同人出品，第13回彩彫展に会員出品。
91	「あかるく，つよく，かしこく」	女兒男児等身立像	セメント	168	婦中町立朝日小学校所蔵（校庭）。
92	「宮原先生像」	男性肖像	ブロンズ	80	鹿兒島県立薩南工業高等学校所蔵（昭和44年という資料あり）。
93	* 同上	男性肖像	石膏型抜き	80	
94	* 「土俵」	工ス	石膏直付け	27	第25回富山県展に招待出品。
95	* 「永平寺」	工ス	石膏直付け	51	第26回富山県展に招待出品。
96	* 「托鉢」	工ス	石膏直付け	46	
97	同上	工ス	ブロンズ	46	個人（N.K, S.K）蔵。
98	「托鉢」	男性等身立像	セメント	179	第25回二紀展に会員出品。
99	* 「泣く子」	幼児頭像	石膏型抜き	17	第27回富山県展に招待出品。
100	* 「幼なともだち」（あるいは「幼なじみ」）	工ス	石膏直付け	44	第26回二紀展に会員出品。
101	* 「はねる」	馬半身像	セメント	118	高岡市立高陵中学校所蔵（平成2年ブロンズ鑄造，前庭）。
102	「伸びゆく」	少年少女等身立像	セメント	170	

制作年	作品名	種類等	材質	高さcm	出品先と所蔵先
103 昭和48年(1973)	* 「りんご」	エ ス キ ス	石膏直付け	34	第28回富山県展に招待出品。
104	* 同上	エ ス キ ス	プロンズ	34	
105	* 「祈り」	女性等身立像	セメント	165	第27回二紀展に会員出品。
106	* 「予科練の像」(または「特攻隊の像」)	男性等身立像	プロンズ	198	鳥取県美保航空自衛隊基地所蔵。
107	* 同上	男性等身立像	石膏型抜き	198	
108	* 同上	エ ス キ ス	プロンズ	30	個人(S.K)蔵。
109	* 「山田氏像」	男性肖像	プロンズ	37	個人(Y.Y)蔵。
110 昭和49年(1974)	* 「勲章」	エ ス キ ス	石膏直付け	51	第29回富山県展に招待出品。
111	* 「勲章と子供」	作者処分	石膏直付け	124	第28回二紀展に会員出品。
112 昭和50年(1975)	* 「太陽に祈る」	男性等身立像	石膏直付け	168	第29回二紀展に会員出品。
113 昭和51年(1976)	* 「行者」	女性等身立像	セメント	36	第31回富山県展に招待出品。
114	* 「行者」	エ ス キ ス	石膏直付け	115	第30回二紀展に会員出品。
115 昭和52年(1977)	* 「舟曳」	半具象男性荷象	石膏直付け	29	第32回富山県展に招待出品。
116	* 同上	エ ス キ ス	石膏直付け	29	
117	* 「囚人ヴォルガの舟曳」	男 $\frac{1}{2}$ 身前屈像	石膏直付け	66	第31回二紀展に会員出品。
118	* 「水運ぶ人」	エ ス キ ス	石膏直付け	71	第19回彩彫展に出品, 第33回富山県展に招待出品(昭和53年)。
119	* 「剣道少年」	少年等身立像	セメント	162	県営富山武道館所蔵(ロビー)。
120	* 同上	少年等身立像	プロンズ	162	富山県立高岡工業高等学校所蔵(昭和63年中庭)。
121 昭和53年(1978)	* 「前進の像」	男性等身立像	プロンズ	160	小矢部市立大谷小学校所蔵(昭和52年前庭)。
122	* 同上(「走る」)	男性等身立像	F R P	179	第32回二紀展に会員出品(「走る」), 第20回彩彫展に出品。
123 昭和54年(1979)	* 「さつま太鼓」	エ ス キ ス	石膏直付け	56	第34回富山県展に招待出品。
124	* 「さつま太鼓踊(テココロイ)」	男性七分身立像	F R P		第33回二紀展に会員出品, 昭和55年第22回彩彫展に出品, 鹿児島県蒲生町中央公民館所蔵(昭和58年ロビー)。
125 昭和55年(1980)	* 「重い荷を運ぶ人」	エ ス キ ス	石膏直付け	43	第35回富山県展に招待出品。

制作年	作品名	種類等	材質	高さcm	出品先と所蔵先
126	* 「難民キャンプの子供」	少年等身立像	F R P	151	第34回二紀展の委員出品で文部大臣賞受賞、第30回彩彫展に出品、第15回現代美術羈絆展に出品（昭和57年文化庁主催）。
127	同上	少年等身立像	ブロンズ	151	井波町高瀬神社所蔵（平成2年境内）、砺波市所蔵（平成3年市役所ロビー）。
128	* 「難民キャンプの子供」	エスキス	石膏直付け	64	第36回富山県展に招待出品。
129	* 「アラサガル」（または「園児」）	エスキス	石膏直付け	43	第37回富山県展に招待出品。
130	同上	エスキス	ブロンズ	43	井波町立井波小学校所蔵（校長室）。
131	* 「嵐」	エスキス	石膏直付け	47	
132	* 「嵐（わが闘病記）」	男性等身前屈像	F R P	151	第36回二紀展に委員出品。
133	「めぐみ」	少女等身立像	ブロンズ	203	富山市所蔵（松川べり公園）。
134	「家族」	エスキス	石膏直付け・鉄	51	第38回富山県展に招待出品。
135	* 「闘病の画家（中村彝）」	エスキス	石膏直付け・鉄	51	
136	* 「闘病の画家（中村彝）」	男性等身倚像	F R P	128	第37回二紀展に委員出品。
137	* 「兵士の死」	マケット	ガラス・石膏	21	第25回彩彫展に出品。
138	* 「面会」	マケット	ガラス・石膏	54	第25回彩彫展に出品。
139	「保母と3歳児」制作年不詳の「母子」と同一作品と推定				第32回富山県美術連合展に出品。
140	* 「炎の人、ゴッホ」	男性胸像	F R P	65	第39回富山県展に招待出品。第38回二紀展に委員出品。
141	「山之口必侍の像」	男性胸像	F R P	約45	鹿兒島県内
142	* 「寒い朝」	エスキス	石膏直付け	25	第40回富山県展に招待出品。
143	「寒い朝」	男性等身座像	F R P	70	第39回二紀展に委員出品。
144	* 「インド見たまま思ったまま（「ガンジスの沐浴」）	エスキス	石膏直付け	71	
145	* 「パキスタンの水汲み女」	女性七分身立像	F R P	128	第41回富山県展に招待出品。
146	* 「一輪車にのって」仮称	エスキス	石膏直付け	59	

制作年	作品名	種類等	材質	高さcm	出品先と所蔵先
147	* 「春風にのってサイクリング」	女性等身立像	F P	151	第40回二紀展に委員出品。
148	同上	女兒等身立像	ブロンズ	151	井波町所蔵 (昭和62年井波高校前通り), 個人蔵。
149	* 「ぶらさがる」	輪に女兒等身像	F P	154	第42回富山県展に招待出品。
150	「陽光を浴びて」父, 少年, 少女, 犬の5点が分離	2基5体等身群像	ブロンズ・伊予青石	長さ全長約600	鹿兒島県所蔵 (昭和62年3月鹿兒島市甲突川河畔・緑と彫刻の道), 原型は第29回彫展に出品 (昭和62年)。
151	* 父の原型	男性等身立像	石膏型抜き	186	
152	* 母の原型	女性等身立像	石膏型抜き	183	
153	* 少年の原型	少年等身立像	石膏型抜き	143	第46回二紀展に委員出品し田村賞受賞 (平成4年「朝のジョギング・ゆっくり走る」)。
154	同上	少年等身立像	ブロンズ	143	群馬県板倉町立西小学校所蔵 (平成5年)。
155	* 少女の原型	女兒等身立像	石膏型抜き	115	第41回二紀展に委員出品 (昭和62年「チビッコ頑張れ」)。
156	* 犬の原型	動物等身立像	石膏型抜き	53	
157	* 「愛妃を偲ぶタージ・マハルの恋慕情」	鉄板に等身立像と建築模型	F R P・鉄	165	第42回二紀展に委員出品, 第28回彫展に委員出品。
158	* 「井波彫刻元祖前川三四郎像一町おこし開町600年の象徴一」	男性七分身立像	F R P	128	第44回富山県展に招待出品, 第43回二紀展に委員出品。
159	同上	男性七分身立像	ブロンズ	128	井波彫刻伝統産業会館所蔵 (昭和63年原型披露, 後彫刻総合会館に移設)。
160	「母子像」	母子等身群像	ブロンズ	220	井波町所蔵 (総合文化センター噴水)。
161	* 「絆如上人」	男 $\frac{1}{2}$ 身乗馬像	F R P	98	第44回二紀展に委員出品 (平成2年)。
162	同上	男 $\frac{1}{2}$ 身乗馬像	ブロンズ	98	井波町照圓寺所蔵 (平成4年)。
163	「絆如上人」	男性等身大乗馬像	ブロンズ	210	井波町所蔵 (平成2年六角堂交差点)。
164	* 「散居村風景の館」	エスキス	石膏直付け	83	第46回富山県展に招待出品。
165	「ジョギングの朝」	「陽光を浴びて」	石膏型抜き		第45回二紀展に委員出品。

制作年	作品名	種類等	材質	高さcm	出品先	所蔵先
166	*「祈り」	エ ス キ	石膏直付け	30		
167	*「無抵抗」	エ ス キ	石膏直付け	28		
168	*「巨匠ダリの像」	エ ス キ	石膏直付け	66		
169	*「ら施の形」仮称	エ ス キ	石膏直付け	24		
170	*「少女」仮称	少 女 頭 像	石膏直付け	29		
171	*「男の首」仮称	男 頭 像	石膏直付け	46		
172	*「男子の首」仮称	男 頭 像	石膏直付け	52		
173	*「子供のモニュメント」仮称	男 頭 像	石膏直付け	90		
174	*「A氏胸像」仮称	マ ケ ッ ト	御影石・石膏	56		
175	*「少年座像」仮称	男 性 胸 像	石膏直付け	45		
176	*「ぶらんこ」仮称	少 年 座 像	石膏直付け	41		
177	*「母子」仮称	エ ス キ	石膏直付け	54		
178	*「くつろぐ少女」仮称	エ ス キ	石膏直付け	23		
179	*「B氏肖像」仮称	少 女 着 色 像	石膏直付け	79		
180	*「キリストの像」仮称	男 性 胸 像	石膏直付け	50		
181	*「阿弥陀如来像」仮称	エ ス キ	石膏直付け	19		

## ＜注記＞

・「\*」印は、板橋家で現認できた作品である（平成6年4月時点）。

・石膏やセメントの原型からブロンズで現認された作品である（平成6年4月時点）。

・石膏像も同一作品とみならず、板橋の作品の場合、ほとんどの彫刻をブロンズのための原型ではなく、作品のオリジナルとして制作している。オリジナルとそれから鋳造したブロンズ作品はそれぞれ別個の作品としてリズトにあげた。ただし、一つのオリジナルから複数鋳造したものは1つの作品としてあげた。

・「\*」印は、板橋家で現認できた作品である（平成6年4月時点）。

・石膏やセメントの原型からブロンズで現認された作品である（平成6年4月時点）。

・石膏像も同一作品とみならず、板橋の作品の場合、ほとんどの彫刻をブロンズのための原型ではなく、作品のオリジナルとして制作している。オリジナルとそれから鋳造したブロンズ作品はそれぞれ別個の作品としてリズトにあげた。ただし、一つのオリジナルから複数鋳造したものは1つの作品としてあげた。

・「エスキス」とは、大作を前提とした小さな試作品で、板橋の場合は昭和39年頃からはほとんど「石膏の直付け」である。

・材質の「FRP」とはFiberglass Reinforced Plasticsの略で、樹脂製の作品のことである。

・「石膏型抜き」とは、ここでは石膏型取りによって原型を再現した石膏製品を指す。「石膏直付け」とは針金等の心棒に石膏をくっつけたり削ったりして作ったもので、両者を区別して記載した。

・「マケット」とは、これまでの地山の付いた人間像の彫刻という古典的な手法を越えて、空間や環境を強く意識した試作品のことを指した。全て、全国コンクールに応募したか、またはそれを前提として制作したものである。

・材質の「セメント」とは、昭和48年頃までの板橋の大作出品作における主な材料である。1点を除いて、ほとんどが石膏型取りによるものである。

・作品の高さは、地山などを含む像だけの高さである、野外の作品などの場合、下の台は寸法にいれなかった。

・「富山県展」とは富山県美術展覧会の通称であるが、広く親しまれているのでこれを使用した。

・「日展」とは日本美術展覧会の通称であるが、これも広く親しまれている。

るのでこれを使用した。

・彩彰展には、昭和34年の第1回展より解散前の昭和63年の第30回展までの間、ほとんど全回出品していたと思われ、出品作品が特定できるもののみ記載した。ただ、ほとんどの出品は新作ではなかったので制作歴としては重要な意味をなさない。昭和58年の2点だけが、新作と思われる。これは全国的なコンクールに出品したと思われる。

・富山県美術連合展にもほとんど毎年出品があったが、これにも新作が出品されることは少なかったので記載しなかった。

・北陸日彫展、北陸二紀展などにも出品していたが、出品回数が少なく重要な出品活動と思われなかったもので、ここではほとんど省略した。

## <謝辞>

この年譜と作品目録の作成にあたり、大変多くの方々に資料の提供や聞き取り調査にご協力いただいた。とりわけ、板橋先生の奥様のゆきさん、画家の藤井宏氏、そして庄川町立松村外次郎記念美術館館長杉森富美吉氏に始終ご協力いただいた。ここに記して感謝の意を表します。